

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

①教育課程編成委員会の設置による教育課程の編成と改善

業界において先進的な試みを実施している企業・施設の役職員の参画により、現在の業界の動向や現場で求められる人材ニーズに対応した教育課程を編成し、継続的に改善に努めている。

②職能団体による課程認定および連携科目の開設

(公社)日本山岳ガイド協会の「自然ガイド」の養成校として課程認定を受けており、教育課程の改善について定期的に協議を行っている。また、ガイド協会所属の現役ガイド講師による「自然ガイド検定対策講習」を設置し、人材ニーズの変化に素早く対応できる体制の構築に努めている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会を設置し、学科側から学科の教育目標、授業内容、卒業・就職実績、地域・企業との連携実績を説明し、教職員以外の委員から審査・評価を頂き、また、業界動向、ニーズについての意見を頂く。以上の情報を集約・分析し教育課程の改善策を検討し、次年度以降の教育課程編成に活用する。教育課程編成委員会は毎年度2回ずつ継続的に実施する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
山田 俊行	トヨタ白川郷自然学校校長	令和2年9月1日～令和3年3月31日(1年)	③
小林 誠	十日町市立里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロ学芸員	令和2年9月1日～令和3年3月31日(1年)	②
大瀧 則雄	国際自然環境アウトドア専門学校校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
小山 敏行	国際自然環境アウトドア専門学校副校長/教	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
斎藤 達也	自然ガイド・環境保全学科主任	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年9月24日 14:00～15:00(ビデオ会議アプリZoomで実施)

第2回 令和3年3月24日 13:00～14:00(ビデオ会議アプリZoomで実施)

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

現存のカリキュラム内容・資格取得状況については委員の方々からは概ね良い評価を頂いた。また、新型コロナウイルス感染症がガイド業界に及ぼす影響についてもヒアリングできた。併せてオンライン配信やその他オンラインコンテンツの活用の重要性、ITリテラシーの底上げ、接客等におけるホスピタリティの重要度の上昇についてもお話を伺えた。それに対応して既存の「自然ガイド企画・実践Ⅰ・Ⅱ」においてガイドのホスピタリティの重要性を説く機会を増やした。また、多くの授業においてTeamsやZoom、Formsといったツールを使う機会を設け、「地域づくりワークショップⅠ・Ⅱ」等でオンラインでの情報発信の機会を作り始めている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専門的で実践的な技能・知識を有した人材の育成を目指し、企業・業界との連携を図ることを基本とする。

特に、インターンシップ実習および(公社)日本山岳ガイド協会所属の現役ガイドによる実習を基軸に据え、将来の自然環境と関わる上での意識づけ、学習目的の明確化、課題解決能力の醸成、実務能力の向上、業界・地域社会への理解の深化を図っていく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

①職能団体との連携科目:(公社)日本山岳ガイド協会「自然ガイドステージⅡ」資格の検定項目に従い、卒業年次学生が自然ガイドの職能に相応しい技能等を身につけているかを本協会検定員(現役の登山・自然ガイド)が検討・フィードバックする(自然ガイド検定対策ⅠおよびⅡにて各40時間ずつ実施)。

②インターンシップ実習:学生は学科が提示する企業・団体または本人が希望する企業・団体の中から実習先を選定する。実習受入依頼は学科主任が行い受入承諾後に実習先と覚書を取り交わす。学生は「学生調書」「参加動機書」を作成し実習先に送付する。実習中は実習先の指導・指示に従い就業体験を行い、毎日実習日誌を作成、担当者の確認を受ける。実習後、学生は「実習レポート」「実習日誌」を作成し学科主任に提出する。また、実習先担当者により「行動力」、「社会人力」、「専門力」、「チームワーク力」に関する成績評価書が作成され、評価結果については学科主任が学生にフィードバックする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
自然ガイド検定対策Ⅰ	(公社)日本山岳ガイド協会検定員(現役の登山・自然ガイド)より技能を検討・指導して頂くことで、資格「自然ガイドステージⅡ」に相応しい技能(特にロープワーク、リスク管理等)を育む。	(公社)日本山岳ガイド協会
自然ガイド検定対策Ⅱ	(公社)日本山岳ガイド協会検定員より技能を検討・指導して頂くことで、資格「自然ガイドステージⅡ」に相応しい技能(特に自然解説、ガイド技能等)を育む。	(公社)日本山岳ガイド協会
インターンシップ実習	実際の企業・施設での就業体験を通して、業界の実情・ニーズを学び就職意識・技能を高めることで、将来の進路選択および方針を明確にする。	十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ、妙高市、赤城自然園等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

① 専攻分野における実務に関する研修等

担当授業、担当業務の質の向上のため、環境保全・環境解析・野生生物調査・体験学習・環境教育・地域づくり等に関連する団体の主催する研修・研究会に参加し、自然ガイドや環境保全の職業実務に関する知識・技術の向上に努める。

② 指導力の習得・向上のための研修等

法人が組織的に実施する研修に参加し、専修学校の教員に必要な資質の向上に努める。研修テーマは、就職指導、メンタルヘルス、対人コミュニケーションとプレゼンテーション、問題解決、マネジメントとリーダーシップ、リスクマネジメント等である。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「植生学会第25回オンライン大会」(連携企業等:植生学会)

期間:令和2年11月14日(土)～15日(日) 対象:植生学会会員

内容:日本の植生学の総本山であり、植生学・植物生態学や自然環境保全についての最新の情報を豊富に得られ、それを専門とする研究者・教育者らと情報交換を行うことができた。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「G-3 昇格基準研修「問題解決」」(連携企業等:国際総合学園)

期間:令和2年10月8日(金) 対象:グループ内該当教員

内容:問題の発見を重視し、更に具体的な解決策の導き方までを論理的な思考モデルを使い学び、自己のスキルを強化した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「水草研究会第43回全国集会」(連携企業等:水草研究会)

期間:令和3年8月28日(土)～29日(日) 対象:水草研究会会員

内容:水草は日本の陸水環境の基盤であり本研究会には国内の水草学術研究の情報が集約している。本会への参加により水草を専門とする研究者・教育者らと情報交換の機会を得られ、水草の生態・保全への知見の充実を図ることができる。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「コミュニケーション指導に関する研修」(連携企業等:株式会社サーティファイ)

期間:令和3年11月(詳細未定) 対象:グループ内該当教員

内容:学生とのコミュニケーションの在り方や考え方、退陣コミュニケーションの価値と意義について学ぶ。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

① 目的

学外有識者、企業、業界団体等の意見をもとに専門分野の動向、要望を教育課程に取り入れ、実践的かつ専門的な知識・技能を持った人材育成教育を実施するため、学則第4条に基づき、教育課程編成を行う「教育課程編成委員会」を設置している。

② 委員会の構成員

- ・業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
- ・専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者
- ・実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- ・学校長が必要と認めた者(業界団体、職能団体の役職員、実務に関する知見を有する企業役職員)

③ 審議内容

- ・学科の教育目標
- ・学科科目の目標、授業内容の理解
- ・業界の動向、外部環境に関する事項
- ・学科科目の目標、授業内容の理解
- ・教授・学習・評価課程に関する事項
- ・卒業・就学・進学に関する事項
- ・地域社会との交流に関する事項
- ・研究に関する事項
- ・教育課程改善案に関する事項
- ・その他関連する事項

④ 教育課程改善案作成

教育課程編成委員会は、現状の教育課程科目内容を認識し、関係する業界動向、最新の知識、機材、手法等を併せて、改善が必要とされる課題を抽出し作成し、改善を要する科目案を作成する。

⑤ 教育課程改善案の進め方

- ・教育課程評価は、教職員と教職員以外の者により評価を行う。
- ・現状の科目別授業目的・内容の把握をする。
- ・業界の動向、外部環境等併せた分析・考察を行い、教育課程評価をまとめる。
- ・成果と課題を明確にし、改善策を検討し、次年度以降の教育課程編成に生かす。
- ・各評価項目に関する必要な資料やデータを収集し保存する。
- ・毎年、継続的に教育課程の改善を行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の理念・目的・育人人材像は定められているか ○学校の理念・目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ○社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ○学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか ○各学科の教育目標、育人人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ○目的等に沿った運営方針が策定されているか ○運営方針に沿った事業計画が策定されているか ○運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ○教材・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ○人事、給与に関する規定等は整備されているか ○業界や地域社会などに対するコンプライアンス体制が整備されているか ○教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ○情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか ○教育理念、育人人材像や業かいのニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ○学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ○関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が実施されているか ○関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ○授業評価の実施・評価体制はあるか ○職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ○成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ○資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ○人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ○関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ○関連分野における先端的な知識・技術等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取り組みが行われているか ○職員の能力開発のための研修などが行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ○就職率の向上が図られているか ○資格取得率の向上が図られているか ○退学率の低減が図られているか ○卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ○卒業後へのキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ○進路・就職に関する支援体制は整備されているか ○学生相談に関する体制は整備されているか ○学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ○学生の健康管理を担う組織体制はあるか ○課外活動に対する支援体制は整備されているか ○学生の生活環境への支援は行われているか ○保護者と適切に連携しているか ○卒業生への支援体制はあるか ○社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ○施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ○防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ○学生募集活動は適正に行われているか ○学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ○学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ○財務について会計監査が適正に行われているか ○財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ○法令、専門学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか ○個人情報に対し、その保護のための対策が取られているか ○自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ○自己評価結果を公表しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ○学生のボランティア活動を推奨、支援しているか ○地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

新型コロナ拡大防止として、学校関係者委員会をオンラインでの開催とさせていただいた。学校運営に関する改善案として様々な意見が述べられた。各学科の教育目標等は業界のニーズを反映すべく改善を重ねているが、組織的かつ継続的に業界のニーズを取りこむ仕組みの構築が必要である。現在、職業実践専門課程に認定される山岳プロ学科自然ガイド・環境保全学科においても、業界関係者を含めた教育課程編成委員会を開催している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年11月1日

名前	所属	任期	種別
畠山 浩一	公益社団法人日本山岳ガイド協会 理事	令和2年11月1日～ 令和3年3月31日	企業等委
萩原 浩司	株式会社山と溪谷社 主幹/山岳図書出版部部长	令和2年11月1日～ 令和3年3月31日	企業等委
星野 浩一	国立妙高青少年自然の家 所長	令和2年11月1日～ 令和3年3月31日	企業等委
宮下 富男	妙高市原通自治会 会長	令和2年11月1日～ 令和3年3月31日	町内会
山崎 一	妙高市観光商工課 課長補佐	令和2年11月1日～ 令和3年3月31日	行政機関
遠藤 晋	国際自然環境アウトドア専門学校 校友会会長	令和2年11月1日～ 令和3年3月31日	卒業生
大瀧 則雄	国際自然環境アウトドア専門学校 学校長	令和2年11月1日～ 令和3年3月31日	学校側委員
小山 敏行	国際自然環境アウトドア専門学校 副校長/事務局長/教務部長	令和2年11月1日～ 令和3年3月31日	学校側委員
齋藤 達也	国際自然環境アウトドア専門学校 自然ガイド・環境保全学科 主任	令和2年11月1日～ 令和3年3月31日	学校側委員
松井 茂	国際自然環境アウトドア専門学校 山岳プロ学科 主任	令和2年11月1日～ 令和3年3月31日	学校側委員
田辺 慎一	国際自然環境アウトドア専門学校 野外教育アウトドアスポーツ学科 主任	令和2年11月1日～ 令和3年3月31日	学校側委員
服部 正秋	国際自然環境アウトドア専門学校 クライミングインストラクター学科 主任	令和2年11月1日～ 令和3年3月31日	学校側委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.i-nac.ac.jp/disclosure.html>

公表時期: 令和3年6月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育活動その他の学校運営に関する情報については、「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に準拠し、本校のホームページ、パンフレット、募集要項および学校運営状況に関する資料を別途作成し、企業、卒業生、保護者、地域住民に対し広く公開する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<input type="checkbox"/> 教育理念 <input type="checkbox"/> 教育目標 <input type="checkbox"/> 教育方針など <input type="checkbox"/> 学校の特色 <input type="checkbox"/> 学校長、所在地、連絡先 <input type="checkbox"/> 沿革 <input type="checkbox"/> その他の諸活動に関する計画
(2) 各学科等の教育	<input type="checkbox"/> 定員、入学者数、在籍者数 <input type="checkbox"/> 学科教育目標 <input type="checkbox"/> カリキュラム <input type="checkbox"/> 進級・卒業の要件等 <input type="checkbox"/> 取得を目指す資格、合格を目指す検定及び実績 <input type="checkbox"/> 卒業後の進路
(3) 教職員	<input type="checkbox"/> 教職員数 <input type="checkbox"/> 教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<input type="checkbox"/> キャリア教育への取組状況 <input type="checkbox"/> 実践的職業教育の取組状況 <input type="checkbox"/> 就職支援等への取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	<input type="checkbox"/> 学校行事の取組状況 <input type="checkbox"/> 課外活動への取組状況
(6) 学生の生活支援	<input type="checkbox"/> 学生の生活支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	<input type="checkbox"/> 学生納付金 <input type="checkbox"/> 奨学金、授業料免除等
(8) 学校の財務	<input type="checkbox"/> 学校の財務
(9) 学校評価	<input type="checkbox"/> 自己評価 <input type="checkbox"/> 学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.i-nac.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 自然ガイド・環境保全学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○			PC演習Ⅰ	Microsoft Wordを使用した基本的な文書作成能力を身につける。また、Word文書処理技能認定試験3級の合格を目指す。	1前	32		○		○			○	
2	○			PC演習Ⅱ	Microsoft Excelを使用した基本的な表計算の能力を身につける。また、Excel表計算処理技能認定試験3級の合格を目指す。	2前	32		○		○			○	
3	○			PC演習Ⅲ	Microsoft Power Pointを用いたプレゼンテーションの技法を身につける。また、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験初級の合格を目指す。	3前	16		○		○			○	
4	○			英会話Ⅰ	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身につけるために海外の文化・習慣についても学ぶ。	1通	32		○		○			○	
5	○			英会話Ⅱ	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につけ、実践的に英会話を学ぶ。	2通	32		○		○			○	
6	○			英会話Ⅲ	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につけ、実践的に英会話を学ぶ。	3通	32		○		○			○	
7	○			コミュニケーション技法	コミュニケーション手法を学び、自分自身の言葉で、自分の意思を複数の人に伝える能力を高める。コミュニケーション検定初級の合格を目指す。	1後	16		○		○			○	
8	○			社会人常識マナー検定対策	(公社)全国経理教育協会認定資格3級受験のための対策講座。社会人としての基礎的教養を身につける。	3前	16		○		○			○	
9	○			就職実務	自己PR、履歴書の作成や模擬面接等、就職活動に必要な一連のプロセス、必要書類について学ぶ。	2前	16		○		○			○	
10	○			フィールド観察	学校周辺での自然観察を通じて、生きものに関する基礎的な知識を得て、自然の仕組みについて理解する。	1通	64		○		○	○	○		
11	○			アウトドアスポーツ	無積雪期、積雪期の山岳地域で、安全に登山を行うための技術を習得するとともに、アウトドアスポーツ全般を体験し幅広い分野の野外活動を実践できるようになる。	1通	96			○		○	○	○	
12	○			山岳基礎知識	登山の基本的な知識として、用具や生活術、ナビゲーション技術、山岳気象などについて学ぶとともに、妙高周辺の山について知り、自身の活動の幅をひろげる。	1前	24		○		○			○	
13	○			環境教育ワークショップ	環境教育について自分なりの考えを構築することを目標とし、環境教育に対する各自の考え方を共有するとともに、現時点における意見・考え方の学生間の共通性や相違性を認識する。	1後	24		○		○			○	

14	○		上級救命講習	人工呼吸法、心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法等の習得及び救急車到着までの応急手当の重要性を認識し、日常生活及びアウトドア活動における自主救護能力の向上を図る。	1 後	8			○	○	○		
15	○		野外教育	野外教育指導者として必要な野外教育や野外活動の理論や基本的知識について、実例等を踏まえながら学習する。また、指導実践に向けて、キャンピングストラクターの役割や指導法、安全管理等について学習する。	1 後	16			○	○	○		
16	○		生態学	自然界で見られる生きものどうしのつながりが長い進化の過程を経てどのように形作られてきたのかを解説し、自然界の成り立ちについて理解を深める。	1 前	16			○	○	○		
17	○		多様性生物学	「生物多様性」が意味するもの、その成り立ち、なぜ守っていかなければならないかを理解・意識できるようになることを目標に進めていきます。	1 通	32			○	○	○		
18	○		森林生態環境	森林生態系や樹木の生態についての基礎的な知識を学び、生態学的な視点から「森を見る目」を養う。	1 後	16			○	○	○		
19	○		リスクマネジメント	自然体験活動におけるリスクマネジメントの考え方について理解し、活動の現場でどのようにリスクを見極め、対処していくかについて考察する。	1 前	32				○	○	○	○
20	○		基礎体力トレーニング	基礎体力おもとに持久力の向上を目的にして、全日本代表レベルのアスリートの指導のもとに学校周辺でトレーニングを行う。	1 通	32				○	○	○	
21	○		キャンプ実習	野外教育の代表的なプログラムであるキャンプ活動に関する知識や技術を体験を通して学ぶ。日本キャンプ協会のキャンピングストラクター養成講習会を兼ねる。	1 前	32				○	○	○	○
22	○		雪上キャンプ実習	雪上での諸活動（スノーシューハイク、キャンプ生活等）を通して、冬期活動の基本的なノウハウや安全管理について学ぶ。	1 後	32				○	○	○	○
23	○		森林管理実習	安全にチェーンソーや刈払機を操作し、樹木の伐倒や草木の刈り払いを行えるようにするため、「林業・木材製造業労働災害防止協会」が発行する教科書に即して、学科および実技の講習を行う。	1 前	32				○	○	○	○
24	○		雪上スポーツ	冬期野外活動の代表的な種目であるアルペンスキー、クロスカントリースキーの技術の向上、知識の獲得を通じて、積雪期における野外活動への理解を深めることを目的とする。	1 後	32				○	○	○	○
25	○		生物分類 (1年次)	生物分類技能検定3級資格を取得することを目的とし、そのために必要な生物の分類に関する知識を授業の中で伝え、試験の合格を目指す。	1 前	40			○	○	○		
26	○		生物分類 (2年次)	生物分類技能検定3級資格を取得することを目的とし、そのために必要な生物の分類に関する知識を授業の中で伝え、試験の合格を目指す。	2 前	40			○	○	○		
27	○		動物行動学	動物の行動が自然選択のメカニズムを通じて進化してきた事実を解説し、生物の様々な行動も進化という観点から見るとよく理解できることを伝える。	2 後	16			○	○	○		
28	○		地球環境科学	地球や地域の環境をとりまく諸問題と、その解決に向けた社会、経済的な取組を幅広く学ぶ。	2 後	16			○	○	○		
29	○		森林生態保護	森林の様々な働きやその働きによって私たちが受けるたくさんの恩恵を学ぶ。また、森林の保全に向けた世界、日本、地域レベルの取り組み事例を紹介し、プロとして自然と関わる幅広い視点を養う。	2 前	16			○	○	○		

30	○	○	○	インタープリテーション	自然解説（インタープリテーション）を行う上での基本的な考え方、技法を学び、実際にインタープリテーションを実施する。	2前	24			○	○	○	○		
31	○	○	○	水辺の環境教育学	水辺と水生生物を使った教育事例を紹介し、水生生物の分類・生態についても解説する。	2後	24			○	○	○	○		
32	○	○	○	ネイチャーゲーム	（公社）日本シェアリングネイチャー協会が認定するネイチャーゲームリーダー養成講座を受講する。	2前	24				○	○	○		
33	○	○	○	自然公園実習	自然公園や関連する社会教育施設を巡ることで、国立公園を始めとする自然公園の機能と課題を学び、博物館等の施設のもつバックヤード機能や展示による情報発信の社会的重要性を俯瞰する。	2後	32				○	○	○		
34	○	○	○	ウィルダネスファーストエイド	緊急医療体系へと引き継ぐまでに時間のかかる状況での野外救急法を学び、さまざまな身体機能の問題や障害から引き起こされるトラブルや野外における環境やストレスからくる怪我や体調不良に対処する医療知識・技術を習得する。	2後	50				○	○	○		
35	○	○	○	バックカントリー実習	冬期の代表的な野外活動であるスキー・スノーボード・スノーシューを用いたバックカントリーでの活動を題材として、雪崩リスクマネジメントを中心とした、冬期の野外活動に必要なスキルを習得し、野外活動に従事する者としての資質の向上を図る。	2後	32				○	○	○		
36	○	○	○	保全生態学Ⅰ	生物多様性の考え方から、外来種対策や自然再生の最前線の動き、具体的な方策まで学び、自然を守るプロとしての保全生態学的知識・意識を身につけることを目的とする。	2前	16			○	○	○	○		
37	○	○	○	保全生態学Ⅱ	この授業では保全生態学的知識・意識を身につけることを目的とする。また前期で学んだ保全生態の実践についての学習内容を振り返りながら、様々な課題に取り組むことにより、実践力を習得する。	2後	16			○	○	○	○		
38	○	○	○	ビオトープ管理士試験対策	2級ビオトープ計画管理士を取得することを目的とし、そのために必要な知識を授業の中で伝え、試験の合格を目指す。	2前	20			○	○	○	○		
39	○	○	○	地域づくりワークショップⅠ	本授業では、妙高の里山での生物・文化資源の収集を進める。また、地域の資源情報を集約する際に有益なQGISおよびGPSの活用法を実践する。	2後	40			○	○	○	○		
40	○	○	○	地域づくりワークショップⅡ	本授業では、妙高の里山での生物・文化資源の収集を進める。また、地域の資源情報を集約する際に有益なQGISおよびGPSの活用法を実践する。	3後	40			○	○	○	○		
41	○	○	○	GIS実習	GISソフトQGISを使用した自然環境解析、特に生物の分布地図の作成を通じて、GISソフトの使用法の基礎と応用を習得する。この中で、自然環境解析の考え方、手順、結果の解釈の仕方を学ぶ。	2前	40				○	○	○		
42	○	○	○	自然ガイド基礎	自然解説に必要な野外での知識、インタープリテーション力を身につけるためのフィールドワーク。	1前	32			○	○	○	○		
43	○	○	○	自然ガイド基礎Ⅱ	将来自然の魅力人を人に伝えるガイドになるために必要な自然に関する深い知識を拡充する。本授業では特にエコシステムに注目し、実際の見学から自然の見方を学ぶ。	1後	40			○	○	○	○		
44	○	○	○	野生生物調査Ⅰ	春～夏を通じて多様な生物分類群を継続的に調査し、生物分類、野外調査、調査計画立案、データ処理といった多岐にわたるプロセスを経験し、実践的な野生生物の調査法を学ぶ。	2前	40			○	○	○	○		
45	○	○	○	野生生物調査Ⅱ	春～夏を通じて多様な生物分類群を継続的に調査し、生物分類、野外調査、調査計画立案、データ処理といった多岐にわたるプロセスを経験し、実践的な野生生物の調査法を学ぶ。	3前	40			○	○	○	○		

46	○		野生生物調査Ⅲ	秋～冬を通じて多様な生物分類群を継続的に調査し、生物分類、野外調査、調査計画立案、データ処理といった多岐にわたるプロセスを経験し、実践的な野生生物の調査法を学ぶ。	3 後	48			○		○	○	○				
47	○		自然観察実習	自然解説技術習得に欠かせない一般的な山地・里山の動植物を観察し、生態系とのつながりをも理解し、環境保全に対する意識を高める。	1 前	40			○		○	○					
48	○		野生生物調査実習Ⅰ	火打山の亜高山帯・高山帯には、絶滅危惧種ライチョウが生息しており、その個体群は日本最北限、最少と知られている。本実習では、ライチョウの繁殖期にあたる5月後半に3泊4日の生態調査を実施し、その具体的な保全に貢献するデータを収集する。	2 前	40			○		○	○					
49	○		野生生物調査実習Ⅱ	火打山の亜高山帯・高山帯には、絶滅危惧種ライチョウが生息しており、その個体群は日本最北限、最少と知られている。本実習では、植生調査によりライチョウの生息環境評価を行い、その具体的な保全に貢献するデータを収集する。	2 後	40			○		○	○	○				
50	○		野生動物保護管理学実習（1年次）	野生鳥獣と人との良好な関係を築くための基本的な考え方や野生鳥獣の生態調査方法・管理方法について学ぶ。	1 前	96			○		○	○	○				
51	○		野生動物保護管理学実習（2年次）	野生鳥獣と人との良好な関係を築くための基本的な考え方や野生鳥獣の生態調査方法・管理方法について学ぶ。	2 前	96			○		○	○	○				
52	○		アルプス登山実習	1年生は山岳プロ学科3年生のガイディングを学ぶとともに、冬山に入る前のアルプスを経験し、今後の冬山の实習に備える。	1 後	40			○		○	○	○				
53	○		自然ガイド企画・実践Ⅰ	山岳ガイド協会（以下：JMGA）が認定する自然ガイドに求められる自然の知識や基本スキルの習得を目的とする。	2 前	32			○		○	○	○				
54	○		自然ガイド企画・実践Ⅱ	山岳ガイド協会（以下：JMGA）が認定する自然ガイドに求められる自然の知識や基本スキルの習得を目的とする。	3 前	32			○		○	○	○				
55	○		ファシリテーション演習Ⅰ	これからの指導者に必要な、人と関わっていく上で必要な人間関係のファシリテーションのスキルと考え方の基礎を体験を通じて学ぶとともに、ふりかえりの仕方を学ぶ。	2 前	24			○		○			○			
56	○		ファシリテーション演習Ⅱ	これからの指導者に必要な、人と関わっていく上で必要な人間関係のファシリテーションのスキルと考え方の基礎を体験を通じて学ぶと共に、振り返りの仕方を学ぶ。	2 後	24			○		○			○			
57	○		環境教育実習	本実習では、環境教育の概念を整理し、国際的な動向、国内的な動向を確認しながら、参加者自身が環境、社会、経済的な問題との関連を認識できるようになることを目的とする。	2 前	32			○		○	○	○				
58	○		自然ガイド検定対策Ⅰ	日本山岳ガイド協会認定の「自然ガイド」資格を取得するために、養成指導者との実践的な活動を通して準備、学習する。	3 前	40			○		○	○		○	○		
59	○		自然ガイド検定対策Ⅱ	日本山岳ガイド協会認定の「自然ガイド」資格を取得するために、養成指導者との実践的な活動を通して準備、学習する。	3 後	40			○		○	○		○	○		
60	○		自然ガイド検定事前講習	ガイド検定対策実習に向けて、ロープワークやザック搬送などの実技について復習する。必要な装備の確認も含め、苦手な部分やできていない事柄について確認し、必要な技術をひと通りできるようになる。	3 前	24			○		○	○		○			
61	○		自然ガイドプログラム企画・運営Ⅰ	社会教育施設の展示や体験型イベントの実践方法や企画について学び、後期には実際に展示を作成する。	2 通	56			○		○	○	○				

62	○		自然ガイドプログラム企画・運営Ⅱ	社会教育施設の展示や体験型イベントの実践方法や企画について学び、後期には実際に展示を作成する。	3通	56			○		○	○	○					
63	○		自然ガイド(英語)実習	昨今、日本を訪れる外国人旅行者は増加し続け、英語によるガイドの必要性が年々高まっている。本実習では、妙高を舞台とした英語によるガイドを自身で考え実践する場を設ける。	3後	32				○	○	○		○				
64	○		アウトドアスポーツ実習(フィットネス)	現代社会の中で健康志向が高まっている理由とその重要性を理解し、アウトドアスポーツから現代の健康問題について考える。	2後	40				○		○		○				
65	○		自然解説指導演習	各学生が自然解説プログラムを企画・準備し、7月の「自然解説指導実習」で2年生を対象としてプログラムの実演を行なうことで、自然解説プログラムの企画運営に関する一連のプロセスを学ぶ。	3前	24			○		○					○		
66	○		自然解説指導実習	自然ガイド/自然観光ツアーガイドとしての即戦力となるスキルを身につけるために、「自然解説指導演習」の授業で企画・準備した自然体験プログラムを学生が主体となって運営する。	3前	40				○	○	○				○		
67	○		エコツアー実習	エコツアーリズムの概念・現状、「自然豊かな地域」が直面する課題/現状を理解し、着地型のツアー/イベントを企画する。	3後	32				○		○	○					
68	○		ガイド検定筆記試験対策	公益社団法人日本山岳ガイド協会の第一次試験(筆記試験)に向けた対策として、教本を元に自然ガイドの基礎的知識及び専門的知識分野について対策授業を行う。	2後	16			○			○					○	
69	○		標本学Ⅰ	標本の学術的重要性、その作成方法、管理方法について概説する。その中で、維管束植物、昆虫等の標本を自力で作成できるようになり、標本の学術的重要性を口述できることを目指す。	2後	16				○		○	○	○				
70	○		標本学Ⅱ	標本の学術的重要性、その作成方法、管理方法について概説する。その中で、維管束植物、昆虫等の標本を自力で作成できるようになり、標本の学術的重要性を口述できることを目指す。	2後	24				○		○	○	○				
71	○		フィールド観察指導・引率	フィールド観察受講者の野生生物に関する学習を支援し、自身のインタープリテーション能力の向上および自然環境知識の拡充を狙う。	3通	64				○			○	○				
72	○		ガイド技術演習	読図・ナビゲーション技術、気象判断などの技術を復習し、リスクアセスメントに役立てる、自立した野外活動が行なえるようになるための基礎を身につけることを目的とする。	3前	16				○		○	○					○

73	○		ガイドプログラムデザイン	自力で情報を収集しフィールド観察の場で実践することで、ガイドとしての知識の裾野を拡げ、即興力を向上させることを目的とする。	3通	32		○	○	○	○						
74	○		卒業研究	生物や自然資源を調べる過程を通じて、科学的な思考方法を習得する。全校学生向けの卒業研究発表会での発表を通じて発表スキルも身につける。	3通	##		○	○	○	○						
75		○	インターンシップ実習	自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行う。目的は次の4点：①学習意欲の向上と学習目的の明確化、②高い職業意識を持った職業人の養成、③専門分野での実務能力の向上、④アウトドア業界における人的ネットワークの構築	1通	##			○		○		○	○			
76	○		インターンシップ実習	自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行う。目的は次の4点：①学習意欲の向上と学習目的の明確化、②高い職業意識を持った職業人の養成、③専門分野での実務能力の向上、④アウトドア業界における人的ネットワークの構築	2通	##			○		○		○	○			
77	○		ホームルーム	授業・実習、インターンシップ実習、学校行事等についての準備・意識づけを行う。	1通	16		○			○			○			
78	○		ホームルーム	授業・実習、インターンシップ実習、学校行事等についての準備・意識づけを行う。	2通	16		○			○			○			
79	○		ホームルーム	授業・実習、インターンシップ実習、学校行事等についての準備・意識づけを行う。	3通	16		○			○			○			
80	○		特別授業	外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ。	1前	8		○			○						○
81	○		特別授業	外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ。	2前	8		○			○						○
82	○		特別授業	外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ。	3前	8		○			○						○
83	○		海外研修	海外のアウトドア関連の先進的取組を学習する。1～3年次における任意の年次の後期に受講する。	後	80			○			○	○	○	○		
84	○		就職準備研修Ⅰ	実践行動学のテキストを通して、他者との関わりの中で自分自身について振り返る。また、社会におけるコミュニケーションの重要性を理解する。	1後	16			○			○			○		
85	○		就職準備研修Ⅱ	就職活動に対しての心構えを持ち、面接試験対策、特に集団面接のための技術を習得する。	2後	16			○			○			○		
86	○		ビジネスマナー研修	実社会で必要とされるビジネスマナーを身につける。	3後	16			○			○					○
合計					86科目	2886単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
全年次に開講された科目において、すべてC以上、またはPの科目評価を受ける事。要出席時間数の80%以上出席していること。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	8週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。